

# 社会科における子どもの特性を生かした指導法の工夫

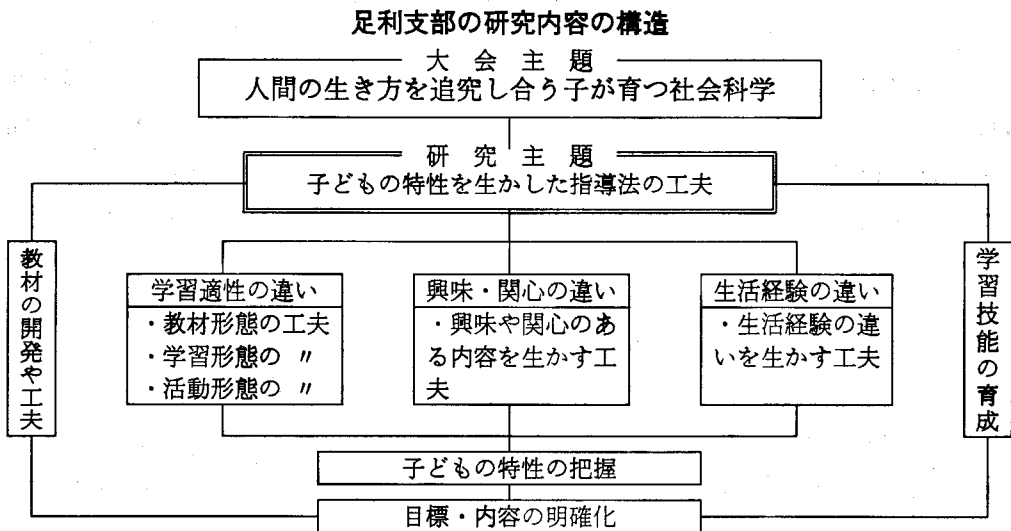
足小教研社会科部会

## 1 はじめに

本稿は、第27回全国小学校社会科研究協議会が栃木県で開催されるにあたって、足利支部の提案資料としてまとめたものを要約したものである。個性の重視や自己教育力を育てるという意味から、「子どもの特性を生かす」といった個に目を向けた指導法は、これから益々、研究されなくてはならない課題であると思われる。暗中摸索の状態で行った研究であり、実践の積み重ねも少ないものであるが、諸先生方の実践を通して、ご批判、ご助言いただければ、我々の研究も深まると思い、起稿いたしました次第である。

そもそも、上記に掲げたテーマは、栃小社研社会科部会の大会主題「人間の生き方を追求し合う子が育つ社会科学習」を達成するために立てた3つの研究視点—①学習意欲を高める教材の開発と指導法の工夫、②子どもの特性を生かした指導法の工夫、③学習技能を身につけさせる指導法の工夫—の中の②の視点を受けて研究したものである。また、「子どもの特性」のとらえ方については、個人差の諸側面として、(ア)達成度としての学力の違い、(イ)学習速度の違い、(ウ)学習適性の違い、(エ)興味・関心の違い、(オ)生活経験の違い…等が上げられるが、栃小社研では、(ア)や(イ)を量的個人差、(ウ)～(オ)を質的個人差(=特性)ととらえているので、その考えに準ずることとした。

そこで、「特性を生かした指導法の工夫」の研究の方向としては、①や③の研究の視点を踏まえつつも、特性としての「学習適性の違い」「興味・関心の違い」「生活経験の違い」に焦点を当てて進めていくこととした。



## 2 研究の実際

### (1) 小単元名 二つの世界大戦と日本

### (2) 単元観

#### ① 学習指導要領の目標・内容の分析

本小単元は、学習指導要領の第6学年目標(1)・(3)と内容(2)オとの関連の上に設定されたものである。本小単元で学習するこの時代は、第一次世界大戦、貿易額の伸びと産業の好景気、物価の上昇と米騒動、政党内閣の誕生、民主運動の高まり、関東大震災、軍人の政治への介入、満州事変、中国への侵略、太平洋戦争、敗戦等、事象的にさまざまなことが起こっている。…(中略)…ここでは、地域の人々の戦争体験を教材の中心として…(中略)…さまざまな事象を関連づけてとらえさせ、学習の焦点化を図るようにしたい。

#### ② 児童の特性の実態(調査項目及び集計結果は別紙)

##### 〈1. 学習適性からみた児童の実態〉

(ア) 教材の適性に関しては、年表、図、表、絵、写真、スライド、OHP、テレビ、VTRといった視覚に訴える教材を好んでいると考えられる。

(イ) 学習形態の適性に関しては、一人で調べたいという児童が8名、グループでという児童が23名、みんなでという児童が24名いる。このうち、一人調べが良いと答えた児童は、グループでも全体でも良いと答えている子が多く、一人調べができる児童はその他の形態でも良いということが言える。グループはいやだと答えた児童は一人もないことから、グループ学習による形態が最も望まれていると言える。なお、一人調べについては、14名がいやだと答えており、半数近くに及んでいる。

(ウ) 活動の形態の適性に関しては、教科書・資料集を使った学習に加えて、見学や実際に体験するといった活動が良いと答えた児童が約3分の2いることがわかる。また、自分の考えを一人でまとめたりするよりも、友達と話し合って進めることを好んでいるという結果が出た。

##### 〈2. 興味・関心からみた児童の実態〉

(エ) 歴史学習に興味・関心があるかどうかについては、ある-19名、どちらでもない-7人、ない-5人、という結果になっている。「ない」と答えた児童の理由を聞いてみると、人が出すぎる、つまらない、よく分からない、むずかしい…等と答えている。

(オ) 学習内容の興味・関心については、特に「人物」と「生活」面に高いことが言える。

##### 〈3. 生活経験からみた児童の実態〉

(カ) 太平洋戦争以前のことについては、ほとんどの児童が知らないようであるが、太平洋戦争中のことに関しては、ほとんどの児童がなんらかの形で知っていることがわかった。ほとんどの児童は、テレビや本等で知り得た内容のことを挙げているが、疎開してきた児童の宿舎があった所に住む児童たちは、疎開くに来ていた児童の様子などを祖父母から聞いていて、かなり知っているようである。

調査項目及び集計一覧

児童番号	ア 教材の形態									イ 学習の形態			ウ 活動の					
	ア文章・資料	イ年表・表・図	ウ グラフ	エ 地図・分布図	オ 絵・写真	カ 録音	キ スライド・OHP	ク テレビ・VTR	ケ 類型・実物	コ その他	ア 一人調べ	イ グループ	ウ みんな	ア 教師の説明	イ 教師の質問	ウ 友達と話し合い	エ 教科書・資料集	オ 自分の考え方をノート
1	○	○	×	○	○	×	◎	○	×	×	○		○	○	○	○	×	○
2	○				○	×		○	○	×		○		○				
3	○					×		○			○		○		○			
4	×	○		○		×	○	○	×	×	○	◎		×	○			×
5	○							○	×		○	○					○	×
6	×	○		○	×			◎	○	×	○	○		×	○	○	○	×
7		○	○		○		◎	◎	×	×	○	◎					○	×
8	○	○	○			○		○	×	×	◎	○	○	○	◎	◎	○	○
9	○				○	×		○			○	×	○		○	○		×
10	×	○	×	○	○	○		○	○		○	○	○					×
11		◎			○		○	○		×	◎	○	×	○	◎	○	×	○
12	×	○	×	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○			
13	×	×	×			×	○	◎	○	×		○	×	×			×	×
14	○	○		◎			×	○	◎	○		◎	○	◎		○		○

カ 生 活 経

出席番号	問題番号		1																			
	回答氏名	例	原爆	徴兵	死者	空襲	石うすの歌	一つの花	ガラスのうさぎ	配給	特攻隊	食糧不足	戦艦大和	ひめゆり部隊	動員	学童疎開	広島の子	上野動物園の象	武器生産	刀で対戦	中国残留孤児	
1	H. A		○	○																		
2	S. I		○		○																	
3	M. K		○			○																
4	M. K																					
5	T. S		○																			
6	K. T		○				○															
7	H. T						○	○	○													
8	N. T		○				○	○	○	○	○											
9	A. T		○	○							○											
10	K. T																					
11	H. N										○		○	○								
12	K. N						○				○											
13	Y. H		○	○						○												
14	E. B			○																		
15	T. H		○																			
16	M. A		○																			
17	T. A		○																			
18	R. I		○	○																		
19	E. I		○		○					○				○	○							
20	K. O									○	○											

形態				エ 歴史学習への興味			オ 歴史学習の内容						
キ 劇	ク 見 学	ケ 実 際 に や る	コ  その他	ア あ る	イ な い	ウ ど ち ら と も い え ない	わ  け	ア 人 権 ・ 政 治	イ 文 化	ウ 産 業	エ 生 活	オ 外 国 と の 関 係	カ  その他
○	×	○		○			いろいろな人物が出る			◎	○		
	◎	○		○			むかしの人の生活	○			◎		
×		◎		○			いろいろわかる	○			◎		
○	×	×			○		人が出すぎる	○	◎				
×	×	◎		○			調べるのが楽しい	◎			○	◎	
×	○	○				○	歴史の工夫がない	◎			○		
×		◎				○	わかる所・わからない所	◎			○		
×	○	○		○			今とくらべておもしろい	◎				○	
×				○			知らないことが出てくる	○	◎				
×	○	○		○			昔の人が使ったもの		◎				
○	◎	○		○			人物が好き	◎				○	
×	○	○			○		つまらない			◎	○		
◎		×		○			おもしろい	◎			○		
○	◎	×		○			人物のことがわかる		○			◎	

験のの違い			
	2	3	5
防空ごう	梁田地区のことで 知っていること	神明寮 (疎開)	太平洋戦争と 現在の「衣・食・住」の 違い  日清・日露 戦争との違い
	食糧不足		
	イモ 服が同じ		着るものが大切
			はげしい戦い 死者 増
	物資不足		衣服ボロ 食粗末
	ムギ・ヒエ 野菜をぬすまれた	○	靴に穴 ムギ・ヒエ つぎはぎ
	神明にはものがたくさんあった	○	つぎはぎ 食糧不足 トントンぶき
	イモを分けてあげた	○	ムギ 衣よくない
			原爆 激しい 戦闘力がある
			防空頭きん 食べ物が配給 よい物が食べられず 食べ物がふえた
	戦争だー、いそがしい		着るものが悪い ご飯が食べられない
		○	配給 防空頭きん
			激しい

### ③ 単元の展開構想

#### (7) 本小単元で追求させたい人間の生き方

前小単元で、追求させたい人間の生き方として、「国力を諸外国と対等にしたいという願いを実現すべく、日清・日露戦争に勝ち、条約改正を成し遂げ、急速に国際的地位が向上し、近代文化が発展するに至った政府や当時の人々の努力の姿」を学んできた。

本小単元「二つの世界大戦と日本」では、「国際的地位を向上させるまでに成長した日本は、第一次世界大戦後、民主化を目指す政治の芽生えもあり、政党内閣の出現もみたが、不景気が続き、やがて軍部が政治に介入し、日中戦争、太平洋戦争へと戦争が拡大され国民の多くが犠牲となった。」という事実認識をとおして、国民の願いや努力の姿をとらえさせると共に、これからの日本（自分）はどうあればよいかを自分なりに考えさせていきたい。

その際、短期間に様々な事象が展開されているため、並列的な内容の押さえ方に陥りやすい。そこで、「日本は、どうして戦争の道を選んだのだろうか。」という学習課題を軸に、様々な事象を関連づけてとらえさせ、学習の焦点化を図るようにしたい。

#### (1) 教材の開発

人間の生き方や願いをより実感的にとらえられるようにするため、子どもの日常生活との関わりがあり、地域の中に根ざし、地域社会と深い関わりを持っている次の様な社会事象を教材化したい。

○ 政党政治のゆきづまりによる苦しい生活……足利の学校の様子

○ 戦争中の生活……足利市の町内別死者数・市内の空襲回数・地域に住む戦争中の生活を体験した人の実話・写真資料（学校での軍事訓練・疎開・空襲を受けた後の町の様子）

これらの教材から、戦争の経験の無い児童が、当時の小学生や同じ地域の生活の様子と今の自分たちの生活とを比べることができ、苦しい生活や戦争とはどういうものであるか、肌で感じるができるものと思われる。

なお、軍部の政治への介入により、中国への侵略が行われるに至るが、中国や朝鮮の人々が強制的に鉱山などで働かされた事実（足尾鉱山の強制労働）も含めて、そういった人々の気持ちを考えさせることにより、これからの国際協調の世界に生きる日本人自らの生き方としてどうあるべきか考えさせたい。

#### (2) 本小単元で生かす子どもの特性

本小単元では、足利支部の研究内容になっている三つの観点に焦点を当てて実践することとした。

##### 〈1. 「学習適性の違い」を生かした教材形態・学習形態・活動形態の工夫〉

本学級の児童の教材の適性に関する実態調査によると、スライド・OHP・VTRなどの視聴覚教材や絵、写真、年表を選択する児童が多いという結果が出ている。

活動形態の適性に関する調査では、見学や体験を好む児童が多くいるという結果が出

ている。

また、学習形態に関する調査では、調べ学習時に、グループ・一斉で学習することを好む児童が多くいるという結果が出ている。

そこで、これらの特性を生かすために、学習内容により、一人で・グループで・一斉でという学習形態を取り入れ、追求の段階では、視聴覚教材や絵、写真、年表等多様な教材を準備しながら、特に、戦争中の生活を体験した人を訪問し、生の声を聞くといった活動を取り入れていくこととした。

## 〈2. 「興味・関心の違い」を生かした内容の工夫〉

学習内容の興味・関心については、特に「人物」と「生活」が高いことから、本小単元では、昭和初期の人々の生活や人物を中心に追求していくこととした。具体的な人物としては、政党政治で活躍した「原敬」を、また、戦争中の生活を知る上で実際に当時を生き抜いてきた地域の人の代表としての「Kさんの実話」を取り入れていくこととした。また、当時の生活については、身近な地域の昔と今の様子を比較することも興味・関心を高めるものであるから「(イ)教材の開発」の項で述べたような地域教材の開発を図っていききたい。

歴史学習への興味は、およそ61%の児童があると答えており、16%の児童があまりないと答えている。興味・関心の低い理由として学習内容の難しさがあげられる。そこで、本小単元では、ワークシート・ガイドシートを活用することにより、一人調べがしやすいように配慮していききたい。また、このワークシートには、当時の生活と現在の生活とを比較して思ったことや、当時の人々の生き方について考えたことを書けるような形式にして、教材内容から学んだ自分なりの生き方を追求できるようにしていきたい。さらに、児童の興味・関心をとらえる方法として、毎時間自己評価をとっていききたい。

## 〈3. 「生活経験の違い」を把握し、生かす工夫〉

児童の生活経験を把握するために、今までは単元に入る前にレディネステスト等を行ってきたが、それに加えて、本時の学習に即生かすことができる生活経験を把握するため、予備学習を取り入れることにした。この予備学習によって、児童の生活経験の違いを把握し、経験のある児童を学習に生かすことができると思われる。さらには、児童の興味・関心の度合いもおしはかることが出来ると思われる。

### (=) 本小単元で育てた学習技能

本小単元は、資料の読解の技能をワークシート・ガイドシートで、また、話し合いの技能を「事実の発表やまとめ」の段階で、重点的に育てたいと考える。そして、書く作業においては、ワークシートを活用し、文章表現ばかりでなく、図式やイラスト等多様な表現活動を取り入れていききたい。また、友達の考えを対比しながらワークシートにメモしたり、チェックしたりしながら聞けるようにする技能も育てていきたい。

### (3) 単元目標と観点別目標 (略)

(4)-1 展開計画(略)

(4)-2 人間の生き方を追求し合う授業と特性を生かした授業の流れ

次項	1. 学習問題について考えよう	2. 第一次世界大戦と日本	3. 政党政治	4. 政党政治の行きづまり
学習問題	① 日本は、どうして戦争の道を歩んだのだろう。	② 第一次世界大戦が日本に与えた影響と国内の様子(生活)を調べよう。	③ 人々は、生活をよりよくするために、どのような運動を起こしたか調べよう。	④ 一向に生活がよくならなかったのは、なぜだろう。
人間の生き方を追求し合う授業	○ なぜ日本が戦争の道を歩んだのか、明治時代の出来事を想起したり、写真や年表を活用したりして自分なりの予想を持ち、これからの学習の目当てとする。	○ 産業の発展にもかかわらず、国民は米騒動が起きるほどの苦しい生活をしていたことをとらえ、その矛盾について自分なりの考えを持つ。	○ いろいろな民主運動が起こった事実をとらえると共に、苦しい生活をより良くしようとする人々の努力に目を向け、自分なりの考えを持つ。	○ 大根をかじる子の写真や当時の足利市の小学生の資料と、今の自分の生活とを比べて思ったことを書く。
特性を生かした授業	一斉学習・一人	一人・グループ・一斉	一人・グループ・一斉	一斉学習・一人
	ワークシート	ワークシート ガイドシート	ワークシート	ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第一次世界大戦の写真</li> <li>・ 東京大空襲の絵 ↓ 〈問題作り〉</li> <li>・ p.126~137の写真や絵</li> <li>・ 年表 ↓ 〈予想の手かがり〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書本文 p.126~127</li> <li>・ 貿易のグラフ p.127</li> <li>・ 米騒動の絵 p.127</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書本文 p.128~129</li> <li>原敬の新聞記事</li> <li>・ 発足当時の記事</li> <li>・ 暗殺時の記事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大根をかじる子の写真 p.130</li> <li>当時の足利市の資料</li> <li>・ 北郷小児童の様子(文房具等の不足)(そまつな衣服と弁当)</li> </ul>
興味自己評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人で調べられた。</li> <li>2. 今日の勉強がよく分かった。</li> <li>3. 楽しく勉強できた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人で調べられた。</li> <li>2. 今日の勉強がよく分かった。</li> <li>3. 楽しく勉強できた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループで調べられた。</li> <li>2. 今日の勉強がよく分かった。</li> <li>3. 楽しく勉強できた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人で調べられた。</li> <li>2. 今日の勉強がよく分かった。</li> <li>3. 楽しく勉強できた。</li> </ol>
次時の予備学習	○ 第一次世界大戦前後の貿易のグラフから、第一次世界大戦中の貿易の様子について考えたこと書きましょう。	○ 米騒動の後、人々はどんな政治を期待したと思いますか。	○ p.130「不景気と凶作に苦しむ農村」の写真を見て、人々の生活はどうだったか考えたことを書きましょう。	○ 不景気をのりきるために、日本はどんなことをしていったのだろう。

5. 中国への侵略	6. 太平洋戦争と日本の敗戦	7. 小単元のまとめ	7. 小単元のまとめ
<p>⑤ 中国を侵略するために、どのようなことをしたのだろう。</p>	<p>⑥ さらに戦争が広がり、国民はどのように戦争中を切りぬけたのだろう。</p>	<p>⑦ 実際に戦争中を体験した人から、その当時の人々の生活の様子を学ぼう。</p>	<p>⑧ 日本が戦争の道を歩んだわけと、この時代についての自分の考えをまとめよう。</p>
<p>○ 軍人が政治に乗り出し、言論の統制や物心両面の不自由な生活を余儀なくされたこと、南京占領等について自分なりの考えを持つ。</p>	<p>○ 小学生・中学生・女学生まで勤労働員されたり、都会の小中学生は疎開したりして戦争中を生きぬいたことをとらえ、今の自分の生活と比べて思ったことを書く。また、原爆投下による多くの人々の犠牲についても考える。</p>	<p>○ 体験者の生の声を聞いて、足利での当時の生活について具体的に知り、戦争中の生活について自分なりの考えを持つ。</p>	<p>○ この時代の人々の生き方や戦争について思ったことやこれからの日本（自分）はどうあればよいか考え、まとめる。</p> <p>○ 友達の発表を聞きながら、自分の考えに補足・修正する。</p>
<p>一人・グループ・一斉</p>	<p>一人・グループ・一斉</p>	<p>一斉学習・一人</p>	<p>一斉学習・一人</p>
<p>ワークシート ガイドシート</p>	<p>ワークシート ガイドシート</p>	<p>ワークシート</p>	<p>自作資料 ワークシート(発表時)</p>
<p>・ 教科書本文 p.131～132</p>	<p>・ 教科書本文 p.133～134</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">当時の足利市の資料</p> <p>・ 市内の町内別死者数</p> <p>・ 市内の空襲回数</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">写真資料</p> <p>・ 学校の様子 (軍事訓練・疎開)</p> <p>・ 町の様子 (空襲・防空ごう・配給)</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">体験者の実話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空襲</li> <li>・ 爆風</li> <li>・ 防空ごう</li> <li>・ 食糧不足</li> <li>・ 配給</li> </ul>	<p>・ 各自の作成した資料</p>
<p>1. 一人で調べられた。 2. 今日の勉強がよく分かった。 3. 楽しく勉強できた。</p>	<p>1. 一人で調べられた。 2. 今日の勉強がよく分かった。 3. 楽しく勉強できた。</p>	<p>1. 一人で調べられた。 2. 今日の勉強がよく分かった。 3. 楽しく勉強できた。</p>	<p>1. 発表がよくできた。 2. 友達の発表がよくわかった。 3. 楽しく勉強できた。</p>
<p>○ 太平洋戦争について調べてこよう。(家の人などから聞いてこよう。)</p>	<p>○ 戦争中の生活を体験した人に、何を聞きたいか考えておこよう。</p>	<p>○ 第一次世界大戦から太平洋戦争までに人々はどう生きてきたか、またそれらの人々の戦争について自分の考えをまとめてこよう。</p>	<p>○ 戦争が終わった後の人々の生活はどうだったと思いますか。</p>



## (5) 実践と考察

### ① 学習適性の違いを生かした工夫

#### (ア) 学習形態の工夫

本小単元の学習では、学習内容により、一人調べ、グループ学習、一斉学習の学習形態をとってきた。

一人調べでは、できるだけ一人で調べられた喜びを味わわせられるようなワークシートやガイドシートを活用し、グループで確かめ合い、不足を補い合うような形をとった。

一斉学習では、多様な児童の考えを引きだし、考えを深め合えるような形をとった。

本単元では、学習を教科書の配列順に進めながら、1時間ごとの学習問題は、予備学習などをもとにして、一斉学習で立て、グループ学習は生活班で行ってきた。

しかし、本来調べてみたい内容は、一人一人異なるはずである。そこで、別の単元「天下の統一」では、いくつか提示した学習問題の中から、自分で調べたい問題別にグループを作って調べることにした。その結果、学習意欲の高まりはみられたが、学習内容が広まりすぎて、1単位時間でまとめることが困難になってしまった。この授業から、学習内容を教師の意図するねらいのもとに、どう精選するかという問題がでた。

#### (イ) 教材形態・活動形態の工夫

戦争中の生活を体験した人を訪問し、生の声を聞く活動では、子どもたちの目は真剣そのものであった。歴史学習にあまり興味を示さなかったA男が、一つ残らず聞きとろうと必死にメモを取っていた。また、B子は、次のように感想を書いている。

「毎日、毎日、少ない食料という問題をかかえながら、戦争ととなり合わせにくらしていた人々の生活はたいへんだったように思う。食べものがないので、少ない米にいもをまぜて食べたそうだが、今では、考えられない。東京とかの小学生は、空襲をさけるために集団でそ開してきた。空襲警報が鳴ると、防空ずきんをかぶり、防空ごうにかくれたそう。家にあったストーブやなべなどは、みんな供出したそう。あげくのはてには、指輪まで。やっぱり戦争っていやだと思う。もし、これから、そういうことがあったら、もう日本が不景気になるだけでなく、地球がほろんでしまうかもしれない。」 当時の人々のくらしや生き方が、心に響いたようである。

### ② 興味・関心を生かした工夫

児童の学習内容についての興味・関心を生かして、人物や生活を中心に学習を進めた結果、自分なりの感想や考えをもてるようになった。

例えば、戦争中の生活を体験した地域の人「Kさんの実話」では、上記のA男、B子のように興味・関心をもって学習に取り組むことができ、情意面での意識の高まりもみられた。

また、興味・関心の低い児童への配慮として、ワークシートやガイドシートを活用した結果ワークシートへの書き込みや自己評価から、学習意欲の高まりを感じることができた。

(児童作品C参照)

また、当時の人々の生活面を中心に作成したたワークシートには、自分たちとの生活と比べた感想が書いており、人々の生き方にふれることができようである。

〈児童の作品C〉 —— 第4時「中国への侵略」ガイドシート記入例 ——

<調べてわかったこと>

・政治家や軍人中にあった考え	中国にもつね利を足場にしているに都合がよい日本はないという主張も聞かれました。
----------------	---

＊ 主な出来事

・1931年(昭和6年)9月、日本軍は、 <u>満州に鉄道の系統路をはくはし、</u>
<u>中国の領土として満州を占領した。</u>
・1933年、 <u>国際連盟を脱退した。</u>
・1932年5月15日、 <u>上海の治安を維持する総理大臣の本意が一時殺し、</u>
<u>1936年2月26日、軍閥が政変を起こし、</u>
<u>1937年7月、</u>

政治家が  
殺された

＊ 国民の生活

軍閥が政変を起す → 戦争の始まりと言えど日本人は、	世間は悪化し
はしかりません。日本軍は	

思ったこと国民は戦争はわたしの、やむを得ないと 思っていて、いけいけしていつまでも、 いけいけと叫ぶ。	1. 一人で調べられた。	<input type="radio"/>
	2. 今日の勉強がよくわかった。	<input type="radio"/>
	3. 楽しく勉強できた。	<input type="radio"/>

③ 生活経験のちがいを生かす工夫

本単元では、生活経験を把握する方法として、「予備学習」をとり入れた。

「戦争について家の人や近所の人から聞いてこよう」という予備学習では、児童は戦争中のそ開先であった宿舎の様子や銃弾のあとの残る土塀など身近な資料をさがしてきた。教師は、事前にそれを把握しておき、授業の中で生かすことができた。

また、「写真やグラフなどから考えたこと」という予備学習では、教師は一人一人の児童の生の感想や考えをとらえることができ、友だちどうしの学び合い学習に生かすことができた。

④ 人間の生き方を追求する姿

毎時間、授業後に当時の出来事や、人々の生活についての自分の感想や考えを書き、学習に登場する人間に生き方を考えさせたり、自分なりの考えを深めさせたりしてきた。

特に、「小単元のまとめ」の授業後に書いた単元全体を通した感想は、次のようであった。

- ・日本と他の国にめいわくをかけた。これからは、他の意見を多くとり入れる。
- ・多くの死者と被害を出す戦争は、防いでいかななくてはならない。
- ・軍人や政治家がまちがった考えをしなければ、戦争をしなくてもよかった。
- ・戦争はよくないことだ。でも、戦争は私たちに何かを教えてくれた。
- ・むかしの人々の苦勞がよくわかる。平和な世の中を生きていきたい。

言葉足らずの文もあるが、どの児童からも平和を願う気持ちが感じられた。

⑤ 「国民生活」に関心を示したM子の、ワークシートに見られる学習の姿

M子の実態調査の結果を見てみると、『教材の形態』においては「年表・図表・絵・写真」を好み、『学習の形態』では「グループ学習」、『歴史学習への興味』については「どちらともいえない（わからないときがあるから）」、『歴史学習の内容』については、「生活」と答えていた。また、『生活経験の違い』の調査では、戦争に関したことで知っていることと反応したのは、「原爆」「石うすの歌」「配給」の用語だけで、地域の当時の様子や生活についての予備知識はなかったようである。

このM子の実態調査の結果は、クラス全体の結果と同じ傾向にあり、M子の小単元の学習の姿を追っていくことによって、クラス全体の子どもたちの学習の姿を押し量っていくことになる。

まず第1時における「学習問題について考えよう」の時間には、下記のように記録している。

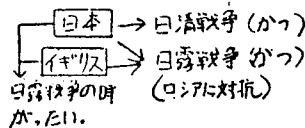
これを見ると、思ったことの中で「国民の生活はどれくらい苦しかったのだろう。」という記述がみられる。

クラス全体の学習内容の興味・関心も生活面に多く反応していることから、地域の当時の生活の様子を伝える資料などを提

学習問題	日本はどのように戦争の道を歩んでいったのだろう
------	-------------------------

<予想>

日本は日清戦争や日露戦争で勝ったので日本もじしんを少しぐらいはもたつて戦争の道を歩んでいったのだろうと思った



戦争を弱とまうから戦争の道を歩んでいったのだろう  
(倍賞金や領土など)

日本がいちばん強いと信じていた。  
外国と意見が合めずはげしく対立。  
緊張がゆるい(本もうとう。関東大震災)  
他の国への支離配も強めた。  
国民の生活は苦しい。

思ったこと 予想のところがむずかしかったけど、いちゃかいた。 日本がいちばん強いと信じていたと予想であつたけれど、本当に強いと信じていたのか分と思つた。 国民の生活はどれくらい苦しかったのだろうと思つた。	1. 一人で調べられた。	△
	2. 今日の勉強がよくわかった。	△
	3. 楽しく勉強できた。	△



### 3 研究の成果と今後の課題

以上の研究を通して、子ども達一人一人が意欲的に学習に取り組む姿がみられ、子どもどうしの発言や考えの中に学び合いの学習の深まりがみられたことは喜ばしい。また、人間としての生き方が考えられるようになったことも見のがせない。

しかし、児童の特性を生かすためには、学習技能の育成や多様な学習活動の経験を積み重ねていく必要がある。その上で、より効果的な特性を生かした指導ができるものと思われる。

また、限られた時間内での学習ということを考え、何を（学習問題）、いかに（解決のための方法）調べていくか、学習問題の絞り方や方法の選択についての教師の教材解釈の深まりと児童の興味・関心の両立を図って進めていくことが大切である。

### 4 おわりに

本研究は、はじめにおことわりしたように、全国小学校社会科研究協議会が栃木県で開催されるにあたって、足利支部の提案として二年にわたって研究したものを要約したものである。栃小教研社会科部会から足利支部に与えられたテーマに基づき、子どもの良さや持ち味を生かし、子ども一人一人が意欲的に学習に取り組めるようになることを願って進めてきたわけであるが、研究が深まれば深まるほど、新たに様々な課題が生まれてきた。このような課題に今後も積極的に取り組んでいくことが、21世紀に生きる子どもを育てることにつながると考える。終りになりましたが、本研究推進に際し、たえずあたためたい御指導をいただいた足利市教育委員会学校教育課指導主事漆原芳三先生に、心から深く御礼申し上げます。

### 評

「社会科における子どもの特性を生かした指導法の工夫」という研究テーマのもとに小教研社会科委員の先生方が実践的研究を積み重ねてきた研究を代表の先生が、更に授業実践を通して研究を深められ、全国小学校社会科研究協議会で発表され大変な好評を得た研究をここにまとめられ、紹介して下さったことに、敬意を表しながら読ませていただきました。

社会科の授業を楽しく魅力のあるものにするためには、まず、教師は児童が本気になって学習しようとする意欲をおこすように工夫することが必要なことである。

そのための工夫はいろいろ考えられるが、ここでは児童生徒の特性つまり、「学習適性の違い」「興味・関心の違い」「生活経験の違い」の三つの観点に絞って研究を深められたわけですが、ここで大切なことは、何を身につけさせたいのか、何を学ばせたいのかという点をはっきり押えなければならないということである。

ややもすると、方法論の研究になってしまうことがあるが、目標を達成するための指導法の研究でなければならない。

この研究の素晴らしい点は、基礎・基本を身につけさせることを前提にして、一人一人の特性を生かした指導法の研究であったことを付け加えておきたい。

つまり、指導のねらい、教材解釈の研究を深めながら、児童生徒一人一人の特性を生かす工夫の研究を行ってきた、ということである。